

キャンドル ファイヤーの友



名前 _____

目次

はじめに

1. キャンドルファイヤーってなに？

2. キャンドルファイヤーとキャンプファイヤーはどう違うの？

3. キャンドルファイヤーの雰囲気や全体の流れは？

4. キャンドルファイヤーでの役割分担は？

5. キャンドルファイヤーのプログラムの作り方は？

6. キャンドルファイヤーでのオリエンテーションや準備・実施は？

7. キャンドルファイヤーの注意点・ポイントは？

8. スタンツって何だろう？

はじめに

この「キャンドルファイヤーの友」は、もともとキャンプファイヤー用に作成中だった「キャンプファイヤーノート」をキャンドルファイヤー用に変更し作成したものです。これからのジュニアリーダー活動で何かの役にたてばと思っております。しかし、**キャンドルファイヤーは奥が深く**、いろいろなタイプのキャンドルファイヤーがあるので、これが正しいことはないと思います。これを読まれた方は、いろいろなキャンドルファイヤーを体験してもらいたいと思っております。また、メモ欄が多く入っていると思いますが、自分流の考え・やり方などを書いてこの「キャンドルファイヤーの友」を活用してください。自分流のキャンドルファイヤーができるようになることをご期待いたしております。

1. キャンドルファイヤーってなに？

キャンドルの炎は、電気のない時代からあらゆるものを照らしてきました。人は燭台で揺らめく炎の下で食事をしたり、書物を読み書きしたりしていました。街角ではガスキャンドルが辺りを照らし、キャンドルライトを手に歩いていました。また、宗教などの儀式においても用いられていました。キリスト教のクリスマス・キャンドルサービスや、看護学生の戴帽式などはみなさんもご存じでしょう。

キャンドルファイヤーはキャンプファイヤーと同様に、その炎を単なる明かりとして利用するだけでなく、火を見つめながら語り合うといったような精神的な神聖の場として行います。キャンプにおいては、キャンドルサービスとしてセレモニー的に行ったり、キャンドルファイヤーとしてボン・ファイヤー的に行われています。

しかし、キャンドルファイヤーの多くは雨天時のキャンプファイヤーの代わりとして行われています。それもいいのですが、上記のことからわかるように、キャンプファイヤーとキャンドルファイヤーの違いを知って、プログラムに取り入れてみてはどうでしょうか。晴れていてもキャンドルファイヤーをするのもいいのでは…。また違った趣があると思います。

ここでわかったことは…。

2. キャンドルファイヤーとキャンプファイヤーはどう違うの？

キャンプファイヤーとキャンドルファイヤーを比べてみるとつぎの特徴があげられます。

1) 天候や季節に左右されない

キャンプを行う高原や山岳地帯は雨が多く、キャンプファイヤーが中止になることも多いものです。キャンプファイヤーとほぼ同じプログラムで実施できるので、代替プログラムとしても利用されます。

2) 準備が容易である

キャンプファイヤーでは、薪やトーチ棒の用意、防火の対策など大がかりな準備が必要になるので、時間や人手が足りないときは、キャンドルファイヤーが有効になります。

3) 他の照明との併用が出来る

厳粛な儀式的プログラムではキャンドルのみを使い、ゲームなど明るさが必要な場合には、室内灯などを利用することが容易にできます。

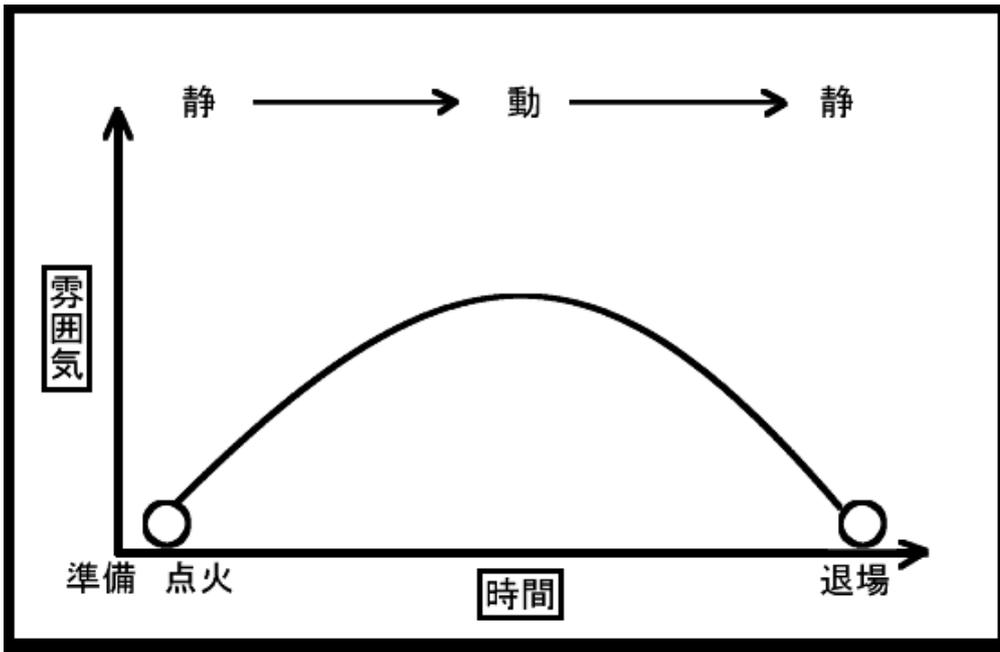
4) より厳粛な雰囲気をつくりだす

キャンドルの小さな炎が神聖な雰囲気を作り、静かな別れの儀式を演出します。また、室内では声が通りやすいため、静かな口調で進めることができます。

ここでわかったことは…。

3. キャンドルファイヤーの雰囲気や全体の流れは？

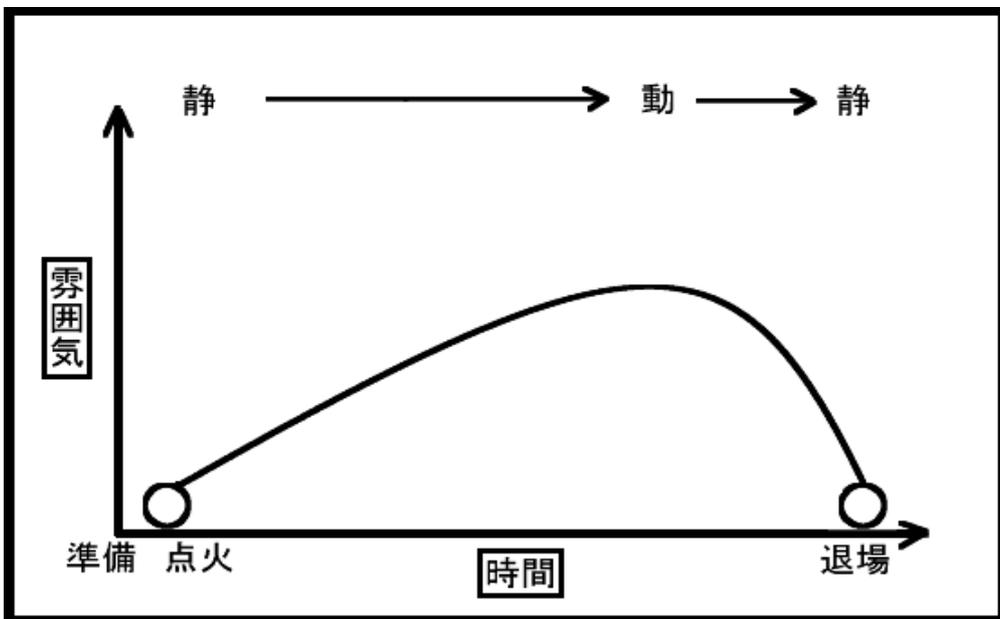
キャンドルファイヤーには流れがあります。ただやみくもに進行すればよいわけではありません。



はじめは静かに始まり少しずつ盛り上げ、山の頂点からはまた少しずつ雰囲気を落としていきます。このような静⇒動⇒静（整）の流れが大切なのです。

静⇒動⇒静（整）の『整』は心を整えるということで『整』になっています。

キャンドルファイヤーの多くは神聖的に行われますが、キャンプファイヤーのような盛り上げ的な雰囲気もあります



上のような流れが一般的なジュニアリーダーが行うキャンドルファイヤーの流れです。

ここでわかったことは…。

4. キャンドルファイヤーでの役割分担は？

キャンドルファイヤーには下記のような役割があります。

(1) 営火長(キャンドルマスター)

キャンドルファイヤー全体の責任者で、普通はキャンプ長や年長の指導者になります。開会の宣言、火についての話、評価・総括をし、雰囲気をつくります。

(2) エールマスター(司会係、進行係)

プログラムに沿って催しを進行する係。その場に合わせて話などをし、楽しいキャンドルファイヤーにする重要な役目。JLではゲームなどをメインになって行います。

(3) 点火係(女神様、キャンドルキャリアー)

やり方はいろいろありますが、ここで失敗すると全体の雰囲気も変わってしまいます。エールマスターなどとよく打ち合わせをし、練習する必妻があります。(例) 各班の代表・女神様・レク係・研修生など

(4) ゲームリーダー(ゲームマスター、ゲーム係、エールマスターアシスタント)

エールマスターだけでは単調なキャンドルファイヤーになるので、キャンパー(研修生)の気分転換のためにも3~4人づくり、プログラムに沿ってゲームする役目。また、人数が多いとかかわるときに時間がかかってしまったりして、プログラムが遅れることもあります。

(5) タイムキーパー(時間係、時計係)

進行状況、個々のゲームの時間、全体の時間と予定進行時間とのズレを確認して、その対処策をエールマスターに伝える役目。特に設置せず、エールマスターが兼ねることが多い。

(6) 音響係(音楽係)

レクリエーションダンスなど、テープなどを流すときに必要な役目。エールマスターとよく打ち合わせをしておくことが肝心です。また、テープ以外にアコーディオンやキーボードなどの楽器があるとよいと思います。

(7) その他のジュニアリーダー(インリーダー)

ジュニアリーダーだからといって見ているだけではダメ!。参加者(研修生)と一体になって楽しむ必要がある。また、振り付けなどがわからない人には教えてあげられるとなおGood!(目立ってもダメ!)

これ以外にも必要な役割があると思いますが、実施する都度何が必要か考えてみましょう。

ここでわかったことは…。

5. キャンドルファイヤーのプログラムの作り方は？

キャンドルファイヤーの始めから終わりまでの流れをプログラムといいます。プログラムをつくるうえの注意点をあげてみました。

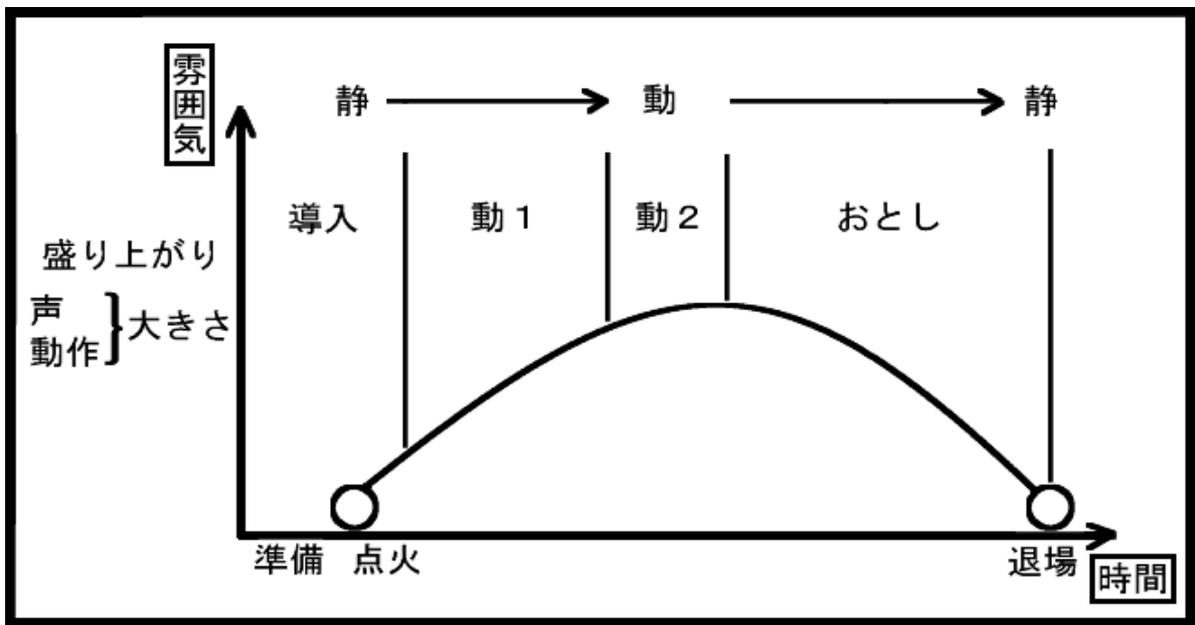
1) 入場方法

できればキャンドルファイヤーを行う会場と違う場所に集合させ、一度静かにし、オリエンテーション（注意）をおこなうほうがよいでしょう。そして列になり静かめの歌を歌いながら入場しましょう。それがだめな場合は、会場に円形にならべて、一度静かにし、注意を与えた方がよいでしょう。

2) 点火方法

人数にもよるのですが、①参加者全員にトーチを持たせ、全員で中央のキャンドル台に点火する方法と、②何人かの代表で点火する方法の、大きく2つに分かれます。①は、どう考えてもキャンドル台のロウソクの数足りなくなり、火をつけれない人もでます。②はリーダーの中から出してかまわないと思います。

3) ゲーム・ソングの展開



ゲーム・ソングは上の図のような展開が一番よいとされています。最初はセレモニー的に静かな雰囲気で始まります。次に、静から動へ移行していき、動の最高潮に達します。そして、今度は動から静へ移っていきます。最後にまた、セレモニー的な雰囲気の中に終わっていきます。

最初のセレモニー的な部分を「導入」、静から動への移行を「動1」、動の最高潮を「動2」、動から静へ移り最後のセレモニー的な部分までを「おとし」と呼んでいます。

導入のゲームは、シンキングゲームや軽いハンドゲームなどを使うことが多いようです。参加者がエールマスターに集中できるようにしていかなければいけません。

動1は、やや動きのあるゲームを中心に構成します。はじめは、スキップのゲームや、シンキングゲームの中でも立ったり座ったりするものを使い、または、グループ対抗戦になるものなどが多いようです。そして、後半は立ち上がって全身を使ったものの中でも、やや、動きの小さいものを使っています。

動2は、キャンドルファイヤーの一番盛り上がる部分ですから、全身を使って大きな動作をするゲームを選びましょう。そして、エールマスターも一番大きな動きをするときです。

おとしは、動2で盛り上がった気分を徐々に静かな気分へ移行させていき、セレモニー的に終わらせる部分です。ですから、だんだん動きの小さいゲームへと変えていき、最後には、歌になっていくようにしましょう。

4) 消火方法と最後のお話

消火にはいろいろな方法がありますが、最後か、その前の歌を歌っているときにエールマスターなどが徐々に火を消していき、最後の一本だけ残して、その後、誰かがお話をする方法が一般的です。また、人数によってですが、参加者全員トーチを配り、最後の一本のキャンドルから一人一人に火を分けたりするのもよいでしょう。(分火)
最後のお話は、目的やグループ・年齢層・そのときの状況などによって違ってきますが、全体の和に関する話が多いようです。

5) 退場方法

入場と同じく、静かな歌を歌いながら退場させることが多いようです。そして、集合した場所まで戻って、そこで解散します。

6) プログラムの分担

キャンドルファイヤーのゲームリーダーは、一人でやるのが一番よいのです。なぜならば全体の流れを一人で作っていただけるからです。しかし、それだけの数のゲームを知らなかったり、体力的に持たないなどの理由で、2人～5人くらいでプログラムを分担してもよいでしょう。そのときにはなるべく、導入・動1・動2・おとしの切れ目（はっきりした切れ日はありませんが…）や、参加者が立ったり、座ったりすることなどをよく考えて分担しましょう。

7) その他の注意

a. 全体の流れのチェック

プログラムができあがったら、もう一度流れをチェックしましょう。図のように盛り上がるの山ができていますでしょうか？

b. 立ったり座ったりすることについて

キャンドルファイヤーの流れの中で、参加者が立ったり座ったりすることでしょう。できるだけ、立ってするゲーム・座ってするゲームはまとめておきましょう。そうしないと、参加者が立ったり座ったりだけで疲れてしまいますし、ゲームの流れもブツブツに切れてしまいます。

ここでわかったことは…。

6. キャンドルファイヤーでのオリエンテーションや準備・実施は？

1) オリエンテーション

待に子どもの場合には絶対必要だと思いますが、参加者がどんな場合でも一応注意をした方がよいでしょう。また、参加者への事前の説明では、キャンドルファイヤーの場合、特に次の点を説明に加える必要があります。

- ・最初と最後はセレモニー（儀式）的なのでその時は静かにすること。（静と動のメリハリをつけること）<このことに関しては言わない方がよいとする考え方も強いですが、子どもの場合は必要だと思います>
- ・火を移す場合は、火を受け取る側がロウソクを傾けます。火を移す方がロウソクを傾けるとロウがたれてしまいます。
- ・ロウソクを持って歩くときは、風で消えやすいので、ゆっくり歩きましょう。
- ・ロウソクの火を消すときは、口で吹き消してはいけません。手を振って風を起こして消します。
- ・その他必要なこと

2) 準備

当然のことですが、キャンドル台はあらかじめ会場に設置しておきます。普通の宿泊施設などには、キャンドル台が用意されていると思います。ロウソクが短くなってしまっているものを新しいものと交換したり、点火用のトーチを用意したりしておきましょう。

前回のキャンドルファイヤーの時に使用されたロウソクの中には、芯がロウにめりこんだりして、つきにくくなっているものがあります。また、新しいロウソクは、すぐにはつきません。芯にはロウが上がってきていないからです。事前にキャンドル台のロウソクに一度点火しておきましょう。

3) 実施

実施にあたっての注意点は、いくつもありますが、ゲームリーダーについて、主なものだけいくつか上げてみました。どれもゲームの流れによってメリハリをつけましょう。

1. キャンドルの方を向いて：

相手にお尻を向けるといけないと感じるからでしょうか、キャンドルを背にリードをする人をよく見ます。しかし、そうするとリーダーの姿は真っ黒で顔とかも見えません。常にキャンドルの方を向いて、キャンドルの左右に見える人達を見ながら、リードしてください。また、一カ所に止まっていると常にリーダーの顔が見える人は一緒ですから、キャンドル台のまわりをグルグル回ってください。そのスピードは、人それぞれですが、一般的には、静かなゲームはゆっくりと、動きの大きなゲームはやや速くと考えられています。

2. 声：大きくてとおる声なら最高です。歌などへたでもよいのです。

静かなゲームの時には少し小さめな声を、動きの大きなゲームの時には大きな声を出しましょう

3. 動作：参加者の動作の大きさは、リーダーの動作の大きさに比例すると思います。したがってリーダーは人一倍大きく、派手な動作をした方がよいでしょう。ただし、これも場合があって、おとしの時などに派手になってしまったのではいけないでしょう。

4. つなぎ：プログラムを分担して、数人でリードするときに重要なのは、自分の次の人へのつなぎ方です。盛り上がった雰囲気も、つなぎ方が悪ければ「あっ！」という間に落ちてしまいます。拍手を利用するなど、考えてみましょう。

5. プログラムの変更

せっかく考えたプログラムです。なるべくそれにそって進行させたいものです。でも、どうしてもダメな時は、おもいきって変更しても良いでしょう。リーダーが一人の時の変更は簡単ですが、複数での時は、他の人に関わってくるので大変です。

7. キャンドルファイヤーの注意点・ポイントは？

キャンドルファイヤーをやる時の注意点です。

- ◎自分が担当するゲームではなくても子供と一緒に盛り上がりましょう。
- ◎キャンドルの依頼は特にクリスマスシーズンに多くなります。
クリスマスソングは必ず覚えておきましょう。
- ◎声のトーンは子供にあわせましょう。
- ◎声が高くて、はやければ「盛り上げ」になる。
声が低くて、遅ければ「盛り下げ」になる。
- ◎説明は、ていねい語（お願い口調）にならないように！
- ◎エルマスターやゲームリーダーがゲームをしているときに間違っていたとしても「間違ってる」とか言わないこと。（言ったことによって雰囲気落ちてしまう。）

ファイヤーをするにあたっての心構え

ファイヤーをするにあたって、以下のことを忘れないでください。

- 一、何でもいいから、一つゲームを身につける
- 一、前にでることを恥ずかしがらず、大きな声、大きな身振りで。
- 一、ファイヤーの勉強をするよりも、まず経験する。（頭ではなく、体で覚える。）
- 一、ファイヤーを終える度に、必ず反省会をする。
- 一、前に経験したことを思い出しながら、次に挑む。

ファイヤーの心構えとして、もう一つ言われて いるのが『3つの「かく」』です。

3つの「かく」とは、

- ◎字を「かく」
何でもかんでも頭の中に入れようとしても、忘れてしまうことがあります
ずっと忘れないように、気付いたこと、覚えたことは文字にして残しておきましょう。
- ◎汗を「かく」
頭で分かっているても、実際にやってみるとできないことはよくあります。ファイヤーは頭で覚えるものではありません。実際に汗をかくほど、何度も行って体験・経験して、体にしみこませるようにして、体で覚えるのです。
- ◎恥を「かく」
失敗して恥をかきたくない。誰でもそう思います。しかし、ファイヤーは何度も失敗して、何度も恥をかってこそ上達するのです。失敗を恐れてはいけません、恥をかけば歩くほどゲームやファイヤーのネタは自分のものになるのです

MEMO

MEMO

終わりに

いろいろな方の資料を参考にさせていただきました。深く感謝いたしております。

これを読まれた方は、自分なりのキャンドルファイヤーが出来ますことを楽しみにいたします。

作成者 渡部秋人